

小須戸 ART PROJECT リサーチ滞在報告書
Uchiyama Vergain Ayaka X Julien Laure

リサーチのきっかけ

小須戸ARTプロジェクト

小須戸でのリサーチは、今年4月に新潟で始まった金属と竹のコラボレーションプロジェクトの継続として位置づけられるものである。

6月の展示を経て、両素材の組み合わせに秘められた新たな可能性を実感し、その関係性をより深く探求することを目的に小須戸での滞在制作を行った。

特に、竹の「束ね編み」技法と、三条で受け継がれる金属の打ち出しによる立体成形技術という、異なる性質をもつ二つの伝統工芸に注目した。これまでの作品では、板状の金属に竹を組み合わせる平面的な構成が中心だったが、今回のリサーチでは、金属を叩いて立体を生み出す技法を生かし、竹と金属の新たな融合の形を模索した。

また、滞在先である町屋ラボ(旧古川邸)がかつて桶職人の家であったことにも強い関心を抱いた。

木と金属が精密に組み合わせられる桶づくりの構造は、私たちの関心である「異素材の結びつき」と響き合うものであり、リサーチの大きなインスピレーションとなった。

自然素材に囲まれた静かな環境や、町の建築・意匠にも刺激を受け、素材・空間・地域の歴史が交差する表現の可能性を探る出発点となった。





ローレ・ジュリエンと内山・ヴェルガン綾
夏、「かすかな光の縁をなぞるも」、竹・
銅、2025



町屋ラボ近隣でみられる自然の模様や
注目場所

リサーチの目的

小須戸ARTプロジェクト

本リサーチでは、「金属と竹」という異素材の融合による立体表現の可能性を探ることを目的とした。これまでのコラボレーション作品では、板状の金属に竹を組み合わせる構成が中心であったが、今回はその形式を離れ、より空間的・立体的な表現を追求した。

滞在先である町屋ラボ(旧古川邸)は、かつて桶を製作していた歴史を持ち、建物内には当時の桶や木の部材が今も残されている。この空間的背景に強く惹かれ、桶づくりに見られる「覆う／覆われる」素材の関係性を軸にリサーチを進めた。



町屋ラボ(旧古川邸)で以前作られていた木と金属でできた桶

活動内容

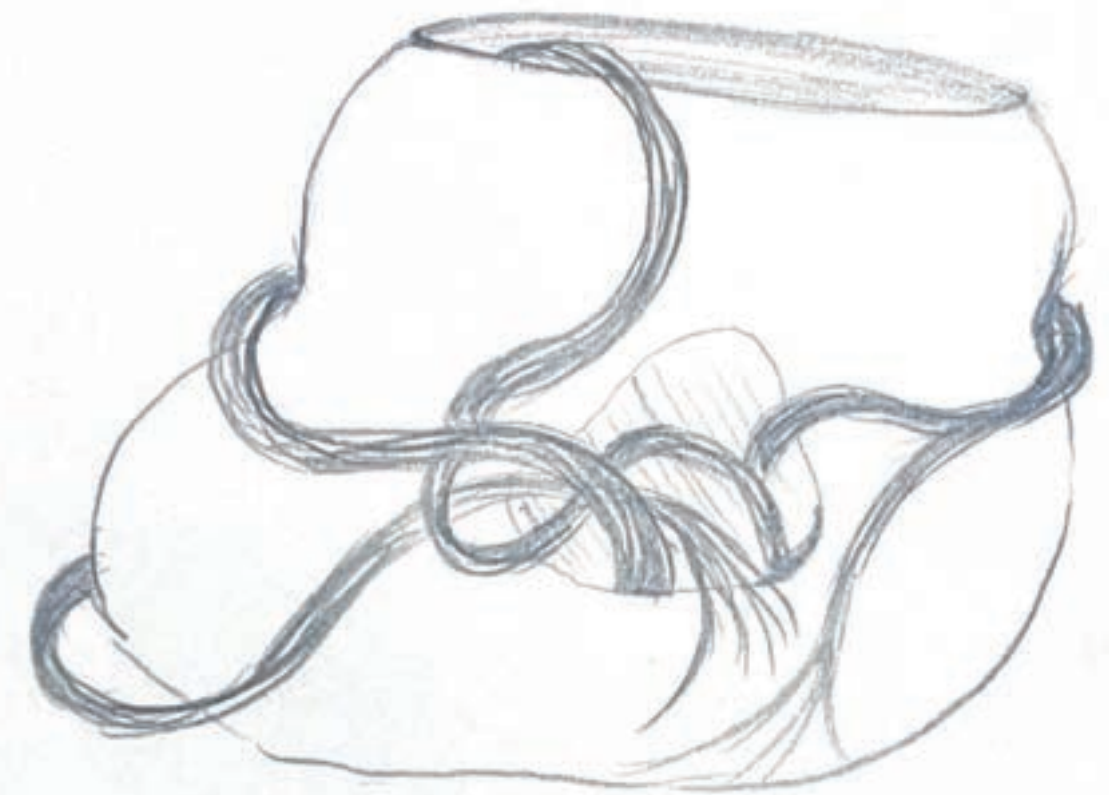
小須戸ARTプロジェクト

2024年9月8日から21日まで、小須戸の町屋ラボを拠点に滞在制作を行った。

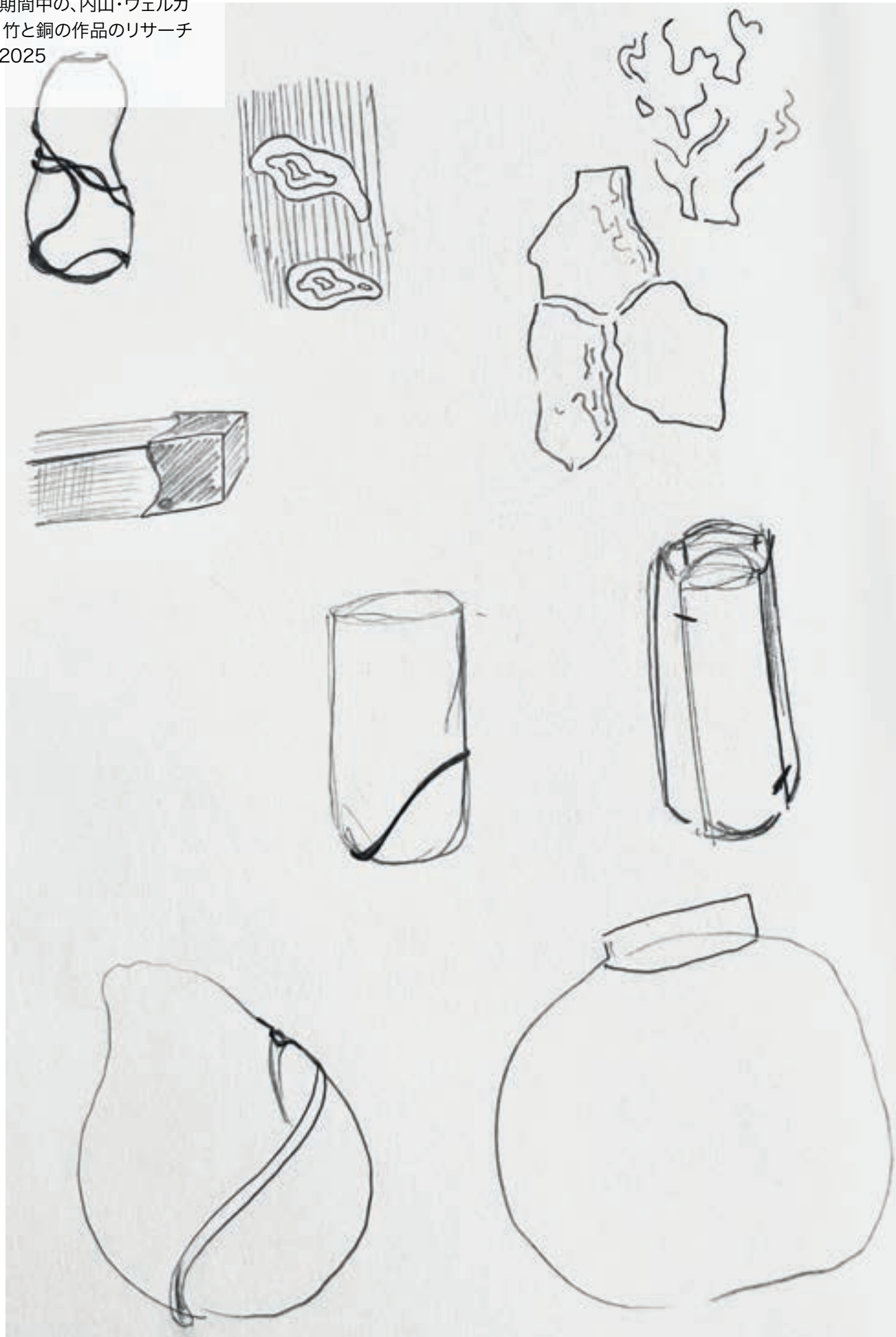
金属工芸および竹工芸に関するリサーチを通して、それぞれの素材や構造への理解を深めた。町屋ラボ周辺を歩いて観察し、地域の風景や建築、骨董品などからインスピレーションを得ながら、素材実験(銅の打ち出しと竹ひごの接合)を行い、試作(プロトタイプ)を制作した。

また、地域の方々や作家・職人との交流を通して、多様な素材との関わり方や制作背景について学んだ。

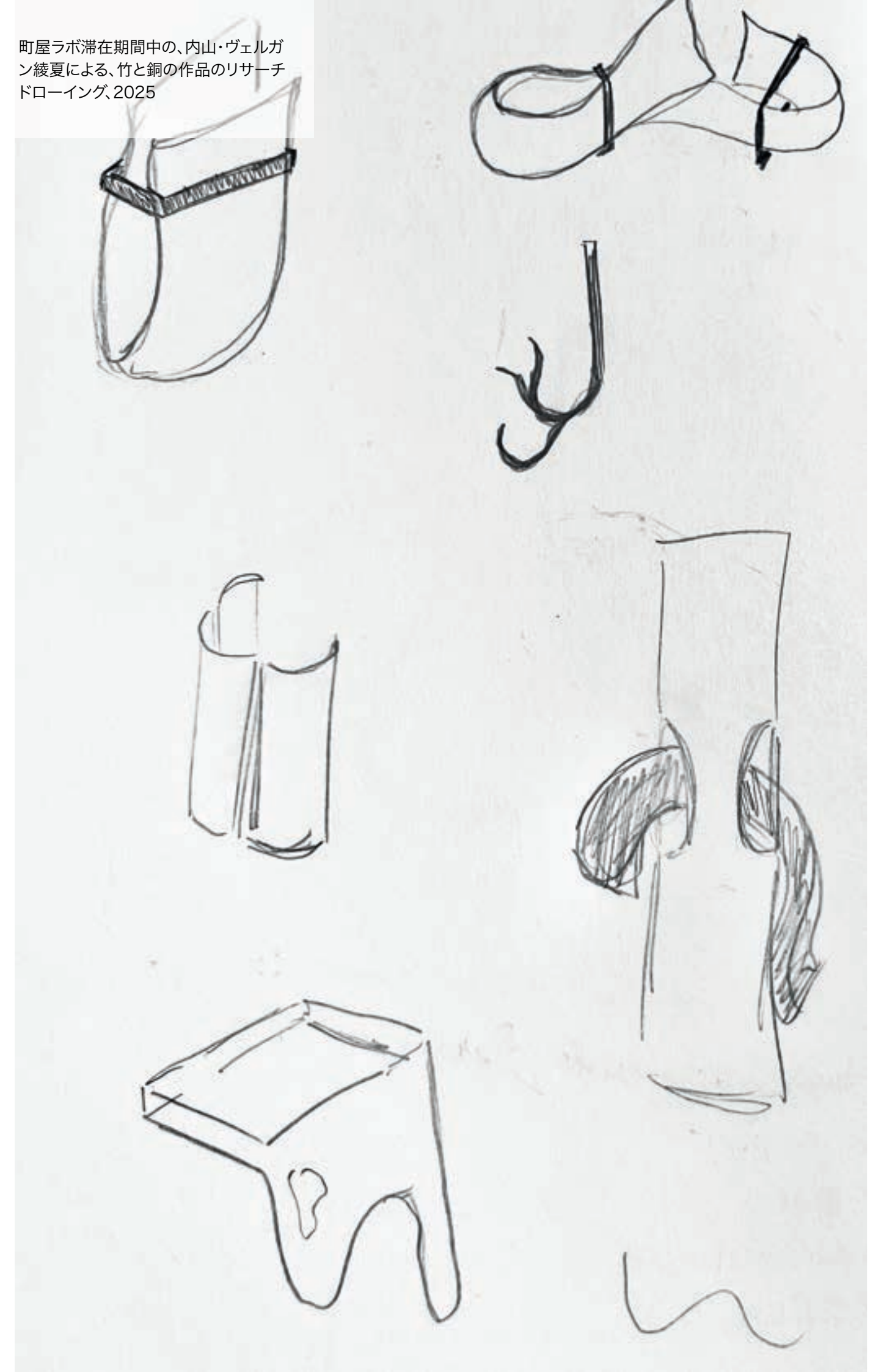
インスタレーション作品の見学を通して、空間構成や展示方法への理解を深めた。



町屋ラボ滞在期間中の、内山・ヴェルガン綾夏による、竹と銅の作品のリサーチ
ドローイング、2025



町屋ラボ滞在期間中の、内山・ヴェルガン綾夏による、竹と銅の作品のリサーチ
ドローイング、2025



滞在期間中は、以下のような調査・実験・交流を行った。

金属工芸および竹工芸に関するリサーチ

それぞれの分野への理解をより深めるため、技法や素材の特徴、加工工程について調査を行った。

町屋ラボ周辺のリサーチ散歩

町並みや神社、古い建築物などを歩いて観察し、竹や木、金属が使われた構造・意匠を記録した。骨董品店にも足を運び、素材や造形のリサーチを行った。

素材実験

銅板の打ち出しによる立体成形と竹ひごの接合を試み、竹と金属の関係性を反転させる構造的可能性を検証した。

実験の中で得られた知見をもとに、小型のプロトタイプ作品を制作。竹が金属を包み込む構造を立体的に表現し、素材のバランスや接合の安定性、視覚的印象などを実際の形で確認した。

地域との交流

地域の方々や作家、職人との交流を通して、素材文化や工芸技術の背景について理解を深めた。インスタレーション作品の見学を通じて、空間的な表現の方向性を探った。

また、桶づくりにおいて金属の箍(たが)が木の部材を締め付ける構造を参考にしつつ、この関係性を「反転」させる試みを行った。具体的には、鋳起銅器の技法 -一枚の銅板を叩き出して器状に成形する- を用い、立体化した銅の形体を竹ひごで包み込むことで、素材同士の関係を再構築した。



リサーチ散歩中に注目したもの、
小須戸、2025



「雑の町屋」で展示されているコレクションの一部、小須戸、2025



スケジュール概要

小須戸ARTプロジェクト

- 9/8(日) 小須戸到着。『雛の町屋』での交流、骨董コレクションの拝見
- 9/9-11 町屋ラボ周辺のリサーチ・スケッチ・スケジュール立案
- 9/12(金) 三条の工房で制作作業
- 9/13(土) 午前:町屋ラボで作業／午後:小須戸・材木店訪問
- 9/14(日)新潟市内でリサーチ
- 9/15(月)町屋ラボで制作
- 9/16(火)長岡・田上へ。和紙作家訪問と体験、インスタレーション見学
- 9/17(水)町屋ラボで作業
- 9/18-19(木・金) 三条で制作、並行して町屋ラボでジュリエンさんが制作
- 9/20(土)町屋ラボで最終制作
- 9/21(日)片付け・掃除、雛の町屋を再訪





町屋ラボと三条の工房での作業の様子、小須戸・三条、2025

気づきと成果

小須戸ARTプロジェクト

制作と観察を通じて、竹が金属よりも視覚的に強い存在感を放つことで、銅という素材の硬質さに柔らかさや呼吸感が生まれることを実感した。この「素材の印象の反転」は、竹と金属という異なる質の間に新たな調和を見出すものであり、従来の補完関係ではなく、対話的な関係性を生み出す可能性を感じた。

町屋ラボに残る桶や小須戸の建築から直接インスピレーションを受け、素材・空間・歴史が交差する表現の方向性を見いだした。特に「金属を包む竹」という構造が、過去に木を締めていた金属箍の記憶と重なり、この場所だからこそ生まれる造形的対話が浮かび上がった。



今後の展開

小須戸ARTプロジェクト

今回のリサーチで得た素材的知見と空間感覚をもとに、今後はより大きなスケールでの立体作品の制作を進めたい。竹と金属という異なる素材の関係性を探りながら、町屋ラボの歴史的背景と呼応するような作品へと発展させることを構想している。

また、伝統技術を現代アートの文脈に引き寄せることで、素材文化の新たな可能性を探っていく。

謝辞

今回の滞在にあたり、貴重な機会をくださった小須戸ARTプロジェクト実行委員会の皆さま、小須戸滞在中にお世話になった地域の方々に心より感謝申し上げます。

また、制作やリサーチの過程で出会った多くの方々から得た助言や交流が、本プロジェクトを大きく支えてくださいました。



Profile : 内山・ヴェルガン綾夏

アーティスト、金属工芸作家。

幼少期から様々な国に住み、文化に触れ、親や身の回りの人の影響によりアートに触れる機会が多い環境で育つ。「つくる」こと、素材に「ふれる」ことに興味があり、自分のルーツである日本とフランスの失われつつある伝統文化を維持したいという思いから金属工芸を学びはじめる。フランスのエコールブール国立工芸大学でフランス彫金とイベントデザインを学び、東京藝術大学の鍛金研究室で日本の鍛金技術を身につける。鍛金という表現技法を追求したく、金工作家須佐真氏に師事。

テキスタイルと金属は私にとって感情を伝え得る手段として、前者は祖父の死をきっかけにのめりこんだ刺繍、母との関係性や私の中の日本人性、後者は大学で学んだ彫金と鍛金、フランスでの思い出などに強く結びついている。自然からインスピレーションを受けながら、これらの素材をおもに使用し、「ルーツ」、「人体」、「つながり」や生活の中で感じる「もやもや」などをテーマに作品を手掛けている。

主な活動

2025年 個展「痕跡」 (ギャラリーゆう/三条・新潟)

2024年 第20回三条市美術展 工芸の部 新潟日報美術振興賞 受賞

2024年 九州・沖縄日仏学館「メティエ・ダール：継承と現代への挑戦」 討論会にパネリストとして登壇

2024年 個展「呼吸」 (東京アートギャラリーPUNIO)

2024年 第78回新潟県美術展 工芸 にいがた未来賞 受賞

2024年 第52回伝統工芸日本金工展 入選

2023年 第19回三条市美術展 工芸の部 奨励賞 受賞

2023年 グループ展『痕跡と生きる』(kisoba / 東京)

2021年 エコールブール国立工芸大学(フランス)美術工芸イベントデザイン科 彫金専攻 卒業

2021年 東京藝術大学工芸科鍛金研究室に留学

2023年 金工作家須佐真氏 師事入門



Profile : ローレ・ジュリエン

アーティスト、デザイナー、竹細作家

ローレ・ジュリエンはアーティスト、デザイナー、職人であり、アクセサリー、衣服、立体造形の領域を横断して作品を制作している。

パリの国立高等装飾美術学校(ENSAD)と文化学園でファッションとデザインを学ぶ傍ら、日本の竹細工を学ぶ。田中 旭祥氏に師事。

それ以来、植物繊維と工芸のコラボレーション、技法、素材、美学のハイブリッド、身体とその動きへの問いかけを具現化する作品の制作に専念している。

彼女のリサーチは、マドリードのフランス・アカデミーであるカサ・デ・ベラスケスなどのアーティスト・イン・レジデンスを通じて具体化されてきた。地元の職人たちとつながり、ジェスチャーと素材のバランスを研究しながら、共同制作の彫刻を生み出している。テキスタイル、竹かご細工、彫刻、パフォーマンスの交差点にあるこれらの作品は、共通した、活気に満ちた、調和のとれたダンスの中で、植物と身体の関係性を問いかける。

「Studio Také」の代表であり、ヨーロッパでは工芸やデザインにほとんど使われてこなかったフランス産の竹の利用をリサーチ・開発することに取り組んでいる。この文脈の中で、現在はフランス文化センターや現地期間の支援を受けながら日本でアトリサーチに力を注いでいる。

主な活動

2025年 クリスチャン・ディオール オートクチュール、コラボレーショ(パリ)

2025年 ゆいぽーと滞在制作および展示(新潟)

2025年 大阪・関西万博フランス館でのカンファレンス(大阪)

2024年 メティエダール・マティアス賞、受賞・展示(パリ)

2024年 カサ・デ・ヴェラスケス、フランスアカデミーでの滞在制作および展示(マドリード)

2022年 熱海アートグラント、ACAOでの滞在制作(AIR)および展示(熱海)

2022年 テラスアート湘南アワード、準グランプリ・展示 (藤沢)

